

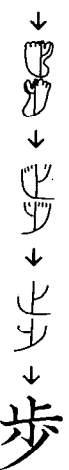
# 歩

三年

画数 8  
筆順 1. 止 2. 止 3. 止 4. 止 5. 止 6. 止 7. 止 8. 止

ホ・フ・フ  
ある 11く・あゆ 11む

成り立ち



もとの字は、「少」のぶぶんが「止」でした。これは「止(止)」のはんたいのかたちで「止」でしたが、そのかたちが「少」という字によく似ていたため、いまのような字になりました。

「右足」のまえに「左足」を出したかたちの字ですから、「あるく」ことをあらわした字であることが、よくわかるとおもいます。

「あゆむ」ということは、「あるく」ということは「あゆむ」といふことばです。

〔ホは漢音で、フ、フは呉音である。将棋の「歩」、歩合の「歩」などのほかは、ほとんど漢音で読まれている。〕

使い方

▽ぼくのいえから学校まで歩くと、十ぶんくらいかかります。

▽よへいさんが、山みちをどんどん歩いていくと、やがて、とうげにさしかかりました。とうげの上から、山の下のむらがみわたせました。とても、きれいな景色でした。

熟語例

▽歩行(歩いて行くこと。足で歩くこと。「歩行くんれんをしました。とても、つかれてしまいました」などといえます。)

▽歩調(歩く調子。「歩調をそろえて歩く」などといいます。)

▽徒歩(のりものにならないで、足で歩いていくこと。「ていりゆうじよから、徒歩四ふんで、わたしのいえにつきます」などといいます。)

▽散歩(ようじて歩くのではなく、きぶんでんかみや、けんこうのために、歩くこと。)

▽進歩(よいほうに進んでいくこと。「しやかいは、だんだんと進歩している」などといいます。)

# 母

二年

画数 5  
筆順 1. ㇀ 2. ㇁ 3. ㇂ 4. ㇃ 5. ㇄

ム  
はは

成り立ち



「女(母)」という字に、おっぱいのしるしをつけた字で、赤ちゃんにおっぱいをのませてそだてる「ははおや」をあらわしたものです。「はは」とよみます。

また、「母のようなはたらきをするもの」「ものをつくり出す「もと」になるもの」といういみをあらわすのにつかいます。

「父が「斧」を意味するのに対し、母は「慕」を意味すると言えよう。母は子から慕われる存在だからである。」

使い方

▽母乳(そだった赤ちゃんは、とてもじょうぶです。)

▽わたしの母のなまえは「山田よし子」といいます。

▽母は、わたしに「おつかいについてきてちょうだい」といいました。かどのとうふやさんで、おとうふを三ちようかつてきました。

▽母校(ひさしぶりにたずねてみた。むかしとちつともかわっていないかったです。)

熟語例

▽母親(おかあさんのこと。女親)

▽母国(じぶんの生まれた国。「母国をはなれて、もう二年になる」などといいます。)

▽母乳(人のお乳)

▽生母(その子をじっさいに生んだ母親)

▽祖母(おとうさん、おかあさんの、おかあさん。おばあちゃんのこと。)

▽母船(おや船。いくつかの小船のもとじめになる船)

▽母校(じぶんがもといいた学校。じぶんのてた学校)